

「常緑樹の新緑」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

今の時期、冬の間葉を落としていた落葉樹は、一斉に新しい葉を出して、新緑の季節を迎える。



これは校庭で見つけた「アオギリ」の新芽だ。小さいながらもちゃんとアオギリの葉の特徴を備えている。これから日々爆発的に成長し、最終的には30cm以上の大きさになる。

しかし、この時期に新緑の季節を迎えるのは落葉樹だけではない。実は常緑樹も新しい葉を出すのだ。



たとえばこれは、今の時期の「スダジイ」である。スダジイは秋にドングリを落とすブナ科の樹木だ。ドングリを落とす樹木は、当然落葉樹と思われがちだが、実はスダジイ、マテバシイなどの常緑樹も多い。このスダジイも、冬越しをした色の濃い葉の枝の先端に、薄い緑色の新しい葉がついている。



これは校庭の南側にある、夏ミカンの木。これも古い葉の間に、新しい葉が見える。



こちらは大学構内のキンモクセイの木。この時期、鮮やかな新緑の色に変身する。植え込みには、たくさんの「落ち葉」が落ちていた。



冬を越した葉とは、色も硬さも明らかにちがう。常緑樹は、確かに「葉のない期間」はない。しかし多くの種類は春に葉を落とす。その意味では「常緑樹」ではなく「常緑性落葉樹」とも言えるだろう。